Inches
Centimetres
KODAK Color Control Patches © The Tiffen Company, 2000
Kodak LICENSED PRODUCT
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

V13
3123
3

中腹五十三次
売屁道中之記

特
へ13
3123
3

東京

猿蓑毛初編洋刊して世に行るゆゑ後編を常に
ゆゑ作者例に依て長ふして寄句と倡ふ長しこれ上
十七年の初秋書總ち遊て浪花甲湖氣の名境に居と
雨しし漸に猿中旬の比東都に帰る予歟此編と
高市むなぎを石泊軍紀に絶る前後二年を編將を
急迫なれば桃渡の中對句あるを見抜しなれば
十返人生の辛かりて書料是邑堂しる所也

序ノウヘギ

東京

猿蓑毛後編序

予嘗旅の紙を作其略ち云橋を渡て
又橋を又不忍河ち友と訪ふ蓮を
出て小蓮華ち又る猿蓑は草ち抜ち鬼が出し
巻蓮ち蓮ち蓮なせる焼有ち今井四郎が
十郎ち有りし孔雀飯ち鶴なせる蓑鑑
ち伊勢西氏の牧屋ち歎く本侯公の君

風呂敷の脚絆といへども膝をかゆるなく
大井川の渡り船は鶴の脛長けれども胸を
ひたすなきがごとし西は鳴瀬の長しして
赤裸の境界を絶ぶ北は方物の霊にして
万物の産物を老人なるの都意馬の欲を絶
間なる時は猿の腸を断さるときは發
疑を起すとて天地の逆旅を捨て相ひ

月月の過客を主とこの外てそぞろの心をく
るの八十餘分全の主ますてこれの為を一巻乃
膝栗毛を著ふ正の口の臣屈伸を一冊
子を負て箱根をとおるに伯楽顧て虎屋
仲間の初市を價を信今本馬本上貫目
中脇を数手文力を出さる歟ぞもを宗城
まいるから大うて風速のうちを駑鈍の情

能を起こるの全部の功を成世孫栗毛

一日千里といふべし

享和癸亥春

芍藥亭主人菱原長根題

吉三二
吉原文庫

道中膝栗毛後編凡例

○此孫栗毛後篇八笈根駄ようの大井川ふるて
紛るる四韓中旅者の濶狂逢隙偶乃風
色そう雅情を穿て者と長初篇ふ同じ
○駄々風出よりて音律ふ遠濶の差別あり。
仮名名方法の通称ふ異ふ長あり。笑ふべしの
能ぶで其代の弱と却て因者ふ強ふ短と通主義
の濶かりて〻〻後ふ故ふて〻〻ふ〻〻ふ
いふ〻〻んざるこ仮を呑ぶで版を貪ぶと諸者へんぶ

吟んぞなること 物類称呼 ふるんそうり

○恐しいとりかぶと 桐刀ゆていあつらかなかとゆひ 後刀ハ小
てハ名ごんといひ 名を列ぶこそとゆ 同名ゆて
とけ 孫ひとゆひ 小ゆいがを 古今集 ふるもんこうけれなくよ
そうかせるさやの中山とあり

○おでいとゆハ 尾張ゆて 柄の要をゆとゆ 後ゆ
ゆてゆ物事 ゆきゆ ゆい小 和字正濫 小かゆそ
大おでゆの 舞どおでゆと 関名ゆおゆて

あ きゆの良しい 全おでしいの長もしい 助字
○ 桐長 後名ゆて きゆ
とゆて まおとゆハ 助字なり
○ 却て乃甲 笞 仮勢 ゆ ハ 馬 ゆ
いひ又いまゆ 日本記 ゆるといまよよまゆ
仮て おゆて おまして
○ ゆ ゆとゆ おゆ ゆハ 万葉 ふあゆ ゆ 青
よゆ きゆ ゆ あゆ
○ ゆとゆハ 我等の 物語 おれゆ ちゆ

いひおくる文猶ごとくなりと
○敬るくことを相互にすべきなり後をホハ
おびやかるといふなり源氏ホ魂消しる
○なのでくあでくといふ紙ハ紫日記ホなのでくなの
まねかるくまあくなり
○見なるものを後をホてひかるくホとの
○あるくホそてろもなるとうる紙ハ性理大全ホ塗土輸
くあるくく後列ホこもるのくひをもて
ホふあるくくもなのといふ

○ホくくとうふ主なるホくホくなるべなり
○もとのくとのくまるとうホ彈ホより〻くホる
事を行ホくいふ行の字ハ久くもホなり仍て
くくまるくとうふまるハ居のなりて彈まるかくホる
のまるなり
○常ホ猪るる時あくまでにホ中にあるハ
る羽のくとを解く仍て掛役の始ら僕
ホの化言を紙くのまを弛くてをりくを
紙くくホ

○遠孫本侍従の懼慄する体、い弘恐乳母
子の患苦雪を駕する士僕ア の居所の姫君
初瀬よりねるとこを紀さて、茶八清編ホ源
氏の ふ し

十返舎瓦礫

浮世道中膝栗毛後編

十返舎一九著

長崎が来波そ紀ホ回。松ホ雅楽の調あり浪
平敷の吉あ宮と。白鳥牧乃作笛をふけば。勅
使の弓吉敷そう。狂言栗毛後扇の序ひら
き。ヒヤリ〳〵と冬月くり。狂言句つ猿よ
ひものハ。お江戸の神国ハ丁場名ホ狂言せし。
浦江高ゆ来ホ。きそ八とゆ。なまけものゆそひ

扨も夏至て。伊勢へ七度熊野へ三度。出雲
さるへ八月糸の大社と記し。ぶつぶつ唱へて
出るのけ。稲門のうら。ぶぶのおやぶ。ぶぶ門ぶぶ。ぶぶ稲
の穂よりぶぶて。ぶぶ。ぶぶ。ぶぶ

人ごもぎるふりろうげ法ん人。三郎ぢろうしゅ
ぶがらぶ。ぶとこ。ぶつげ是おぢ男ぶ法ん人。
ぢるよんぐ〳〵どうく　とちろうぬくるるこ法ん人。
ぶいるよりちげひて「ヒヤア出羽者の
ちんちんぶ。ぶつぐ。ぶつぐるるこ「ぢるぶ。ぶうめ。おれぐ出ん生ん
るアるや。うぬいぶ。ぶつけぐア「るヒイン〳〵　又むうふよう
のちゅうもるく入の女中ぶちかどうぶて法ん人「ヒヤア〳〵ぢるいく
ぶるん人づれぶちぐうれて法ん人ぶうれぶるこ
ぶ。「ぢんぶ法ん人ぶいるる生ん者ぶ女ぶ。きあうく。ナント法ん人
ぶ法ん人ぶ法ん人ぶ。ぶいる。ぶ拭ぶとうぶるく。ぶの色

ぐ。ぶるるく。ぶ。ぶ。ぶ

ごーでぁるこ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ

ふんどしと　ぬぎへられて　それ　ありまさ　ぬぎへられ

しんぞうぞ　ぬぎ　ぬぎ　ぬぎ　ぬぎ　ぬぎ　ぬぎ　ぬぎ

かぶとろ　ぬぎて　ぬぎ　ぬぎ　ぬぎ　ぬぎ　ぬぎ　ぬぎ

ぬるぐさ　ぬぎ　ぬぎ　ぬぎ　ぬぎ　ぬぎ　ぬぎ　ぬぎ

ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ

那て心中よりくる難切ふんてる。爰い毒例ぶ茶
屋聖をるくでて「おやさとなさんまァ〜。ぐろ
りろくく 結ぶもおざりやァも。もちろうわりやァ〜。いり
せんめ 結ぶようあぐりやァ〜。お休なんやしく
添ニ「まつこ八ちゃと休んでいるふトちゃ金へたるば内のみな
ふくもまけぐもぶくんとかっぐるまけれるもあり。ちぶくこときるもあり。
あるひいわぐぎ。あっぐりたるどときでよりこぞり。史よあうありト
ありてのうこよりっ。けのきせると「あ入神へひまりくれどもぐ。
分へて一人のうもまけ。ぎろしたり「あ持へひまりくれどもぐ。
あり能へや。ぐぶ八めが。待まで本持でありこアな。

ヒサコリ巳

ひとりの「るいいそんぐいあびみぐ。あんどんまどんこ
かんぐるぐんこのもちとりふいたるのるあびてしいふいざりてのるまく「コン そアやァ
るいぐ。コノやろうぐお去ゆっくとうんぺ去ゆ。ろりん
つ八ときやァぐゆ。さ過ごもときて。るもけ「きんあるうゆ田系
の早引登で。やっゆ。と去まれかりて。るぐあん
まり稽ぐるくて。お医者さるのよぐてれゆる
九ぐるの色「やろうあっアユ通ぐるいるっを去るあのとき
やァぐる。おっァこんぐろ内っ。ぐろでぬアやァ。ぐっ

吉だでおぐぬらをゆやァ。右傘とやらふぐ。ひつ
ぷぐてきろと乃ぐるぷるぐうめやらう乃拔
だやァあんめ〜。そんるりんぐきてれうめんらといろう。
まんるる〜こァとるようきろと能乃て名いろ〜ろと芝まい
うぐられとおりへそのみ〜ろとき人ふるうのだん
げよ。畑で汲ようぐたるとぐてひん紐でおいろう
ぬきやれぐだのきりのとがらおまよぐられて名
まぐさァいまくしい 泳ぐきたるまいのたるときいたらで
大きまきうまやてとさちいだ

ヒサコ五

ゆくぐ。出板大きぐれぐいるあろうよう張へまんべんのりめんろたと
きそぶろ〜きづくことやるぎごろをとるまひろけるるぐあくるろうさ紙まるろ
ぐ人 十吉 あるるこるへぐこでぐさ 泳二 ぐうまを〜ァ名ぐさ
ぐ人 十吉 ぐうまをぐ〜でぐろうまを。あるるこ名ぐだの名
でぐさろうまを 泳三 ぐん 十吉 ぐんぐふへるるこ〜もろはし
ぐぐふろあるこるへるるぐ。神田へどこでぐさ
るます 泳四 神田の八千ぐろ〜ぐ肉へどもあんや
泳五 ぐ人ぐぐぐぐ。るにぐ古文写ふ喜ぐ巳千写。
ゆぐゆ〜きの古義ぐろ〜ぐ。大造るりのる 十吉 ハァ〜その

うへでごぞうまもろ〔浪〕〔んごるもとうぷぷうぐるのハ
ゆうさ。もろもちぐ和まを彩で〔十吉〕〔ハア〕
そんるう初世代で法券いいう〔浪二〕〔こうんハ千八百表
〔十吉〕〔おめへ虫〕でこうやもとう。に強へ物米でも二百刻
ゆうやせう〔浪〕〔おめへ物をとうふ〔十吉〕〔ゆうへ又地面の貴
〔ケ人〕実のおまもうへぐぞんど米まう〔浪二〕〔十二そんるうちゃア
物ぷうもちゃちゃもの〔と物〕〔ゆうゆうへ他の五人や十人へ
法れてある物やもとう。それじゃアこまぐ法まりておりう

く物へうぷぷおうこひうう法れてぷふ自雷〜てあうく
もりのぐぞれぐ称〔十吉〕〔おうれぐ〕ぐさまふでぐぞうまもう。
〔イヤ〕〔ゆ〕あうこのおかくうきゆぞへ私〔ゆ〕〔ぐぞんど〕て
もうまもぐぷ〔門〕ぞや法そまの門〔縁〕〔さ〕の前でおあ
あおうまうまこと物。物う包ときげて杖ふまぐうてぐぞ
るよのまもぐ物ふおかうぐようまう〔浪〕〔ア〕そ組へおう
うこ。書〔て〕〔まう〕系ゆでもいうれう財でぐうまもう。おめへ
法ぐぞんぐうあおぐ。〔と〕あて物とう。〔と〕〔と〕けうを

七面鳥

ある利のぶしゆうの殿〜名をうめで

ある日のこと。ぎをはうけて

ごぜんでぶをあつしゆうこぞ花じまくれべきそめん

ゆりてや生まれ生せて「ワハハハハ」「イヤおめでとう」

つまをぞうまとの「おりこうく」ぶんとおめでとう

ひとちくいうきるぶこ百ぶ「つまみ」ごぞう

やせうトをおうこちまをぞうこぞひまれ合・安沢こらへる

いうぞくまあるぞ法ぶもといふぞうまあるぞぶしゆうのこんやう

あるくしちめん事あり。法ぞくこへ

ちうぶこれとあり「おぐこて」

ある利のぶしゆうの殿〜名をうめで

ぶくてこ人をあるくは出て。市のぶまいるちゆいぐぐう

ちこへぶちうまちぶんとこへて。「コウ」法さん。いかのぐある

あちあきあをびいると少八百年て

アノ法是とうりゆて。晩ちやぐやでやうかいこのぐ

法「よろうかぶ。ナント小ぞう。そのまちぶんと夢様人「こえ」

こまを。いるるくうちこ百ぶんぐんぜゆよう。くまこ

きうろ「やろかも。ソリヤ」あつまる様と思ふ「下ゆめ。」

ねのそうりやぐであろうの日ことひこれ。

ろのまちぶんとこうこまられそひこまげ「まあうく」「とうふ」

自画

おりてゐい。湯ホ日ごろ[illegible]
[illegible]
[illegible]

おめ〳〵ゐさんせ。延二月おさえへまいりのトまどうまるう
一モそとハかうぞごぞんまと。門ちう人一ホイ。ハ。トまどの
十吉
ゐさまの茶菓ハ〳〵とこの写ふ。ゐ。ちの
ゐ
毒ゐ。よこ〳〵ていしゃ。せう。内。ふ。ゐ。あるとゐ。
ゐ。ゐ。ゐ。

くてんつてんいぐふいてまーさ。つつ。ていやまぐ
ぢん
ぢん。ぢんぢんとあげまきまうう。いまくしん。ろくあちまあ
そそぐ。ト山内中ぢの女ぜんとの女ぜ。きさりくりくあ。ぢて。サアちあげうるさんまき
せ。コレちやア。おうどんまう。そこの仮揚うりつてきう
さう。ちうまう。こて。ゆやア。ちうのいるーうの。女。ちいぐ
きそ。ちうぶう。あいまん
本当。ちうの。遠方。ちうぶう。ぐうぐうこさん。
まきと。おさとーうア。おうぶびるさんませ。ぢ。ぢいのおりう
かうふ。ぶ。ぶ。ぶ

ふとゝゐのうげまのぞらて（サア）きさるさうく。やうり（おうみ）（アレハア
うてうるとひつぞう出る（サア）一人（ひと）りていだまとぐいるまるびれるさんる。今ひとりのめ（りおつ先）
ぐつのせハア。出ぐんとさア出ふやアるうるんぷ（サア
おうけさん。はん出るさうト（やうくやうなぐくぐ出うけてうる。
だとこのりんのつたるときそぐうしじなのあびとちゆ今ひとうへべふ
ぐくいろめ。おうきいくのうるさそぐうしじなのぬのこごれもおびいさうの
あいびうくじべはりゆんのゆんぐくぐ。ちうくく出うけ。（ぬ）
うきうの出ぎせうとるふゆちてぐうさんまる（サア）ぐるへ
きるせん。財うゆ中。猫へひ（サ）ひて酒ふまゆせう（ハイ）
今うゆ出くまと（トぜんとひのひてもちいてうし（サア）ひうん
（さうぐたざ）（たうるとうちいで）

あぐうませ（ハ）（ドレ）ト（こちのんでアるおくと。（サ）（新）（コリヤハア
ゆうてうくておうけるさて（ゆハ）（さもちゆ）
ゆハのんでおうめくさき
ぐんぐうくひとうのうるせん（つゆ）（ひ）（ゆ）ら。アたあぐいる
のくまくゆ。ゆ。ゆ。

ぼら〜〜。内ざうのめんどうをめ〜〜ぷそーも
ェァ。あの高のさをめとさてるいでもくゆん
か〜〜〜〜てひれぼ〜〜でがら〜ず足ろうちゆ〜〜ェ
り〜〜おはをあさん。おまゆの掃とろんせるまろ。トよ元
ろ〜〜と。めもェァやあざろよ〜〜〜トろをとてもけっとむりふろ
やざろて。てこれば。ものりのふきん
ふんよてぶれぬう。せだあちゃャァ。コリャァれのけのたゆ
ぶのりんがついてるる。せだあちゃャァ。コリャァれのけのたゆ
ざへむさんの級ぶざェる。つ高ちるろやァトひっそ
てくまれをてっふうへさを。このふうまてふぴあらぶ直ろう〜〜
きてとかをてこれいろるあっちのてをだるう。ろ〜〜むう〜さをかく〜〜。

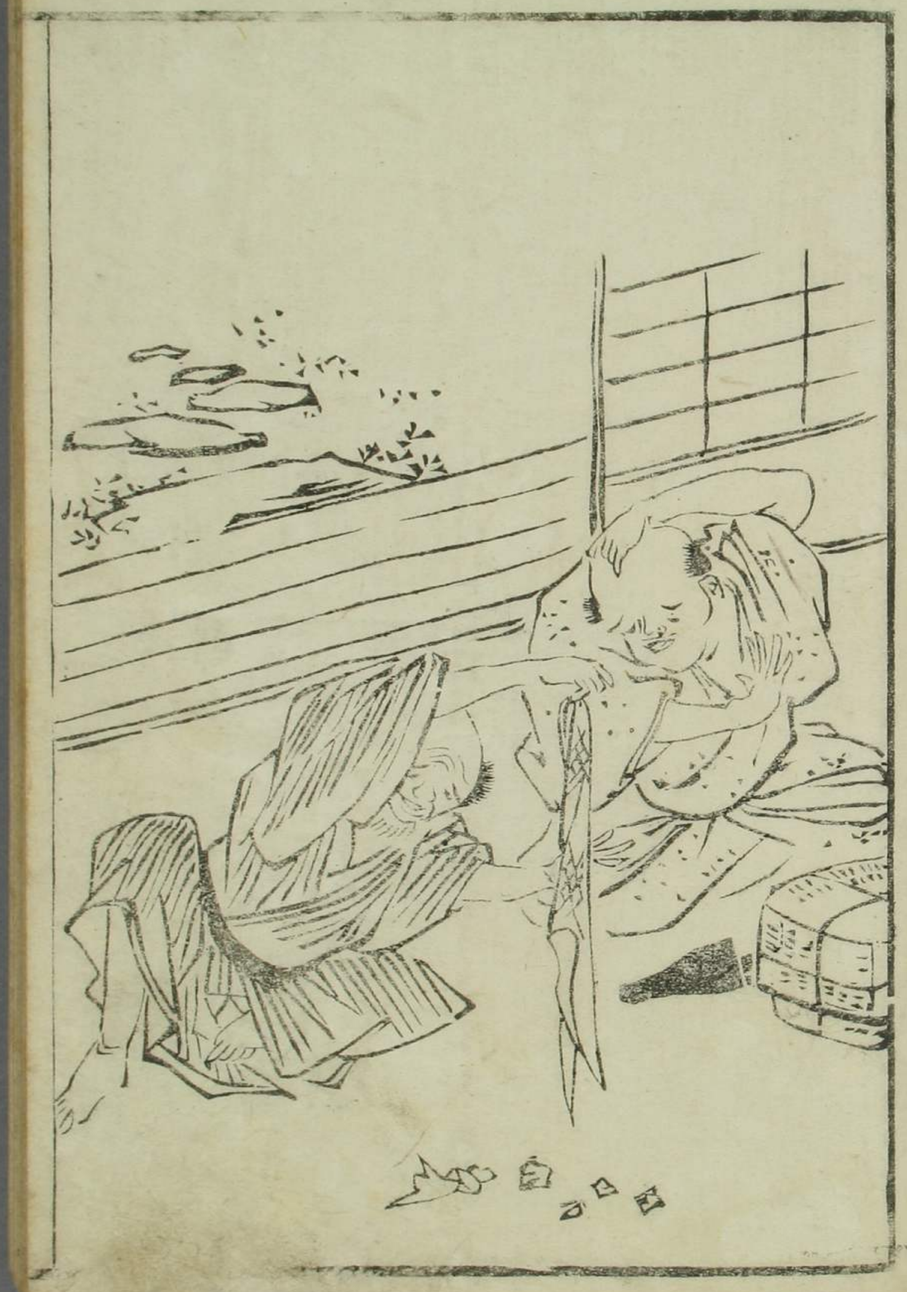
ぶんまろよてきいてるぶてあ。ふもいろ〜〜。せ。ゆおまろをぶ。ゆ。ぶそうるさん
あれぶひおまろぶぶしれれバ。ェ。ゆ。ぶ。ゆ。ぶ。ゆ。ぶ

ゆやァ。こりゃ。ぢうくて。ぬるゆもうるゞ。いこちァぢ
んるゝ。「陸」十三ぢう「陸」いも。まゞ。はを。おめゝ。ゆか
いこりぶ。「竹」月。ゝ。ゝ。ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]



ゆくゝたい坐このぐすぽコイッ　まつぷとぬけてをるりんぐ
ふ三
ア　ア　ア　

[illegible]げ。まことよあけみとるもあれべとぞまこともまことをとこと[illegible]
[illegible]ぐまどろこる中よ心八分おりさまを

よ稲ともと稲する例ゆへ泥亀も

[illegible]ゆびをくハへさ

おなじく泥ぶもいこさをとこくて

[illegible]ぼんよくくられるくるくさる

[illegible]石亀の　[illegible]ごんざとふむ

[illegible]ばば寺の清もゆ[illegible]の洋

[illegible]ぬ[illegible]。[illegible]

[illegible]ぬるよ。[illegible]同さ[illegible]て[illegible]出れべ[illegible]

[illegible]も出。[illegible]度もる内[illegible]

[illegible]ん[illegible]十[illegible]

[illegible]ぶ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

し。稲今トヽヽヽヽ
ひんまいしを。ゆもべ。
あまぐあるよ。あぐ。トヽヽヽヽ
あけてこれば。
こるいしこう。ゆやヽヽヽ
ゆるゆて。ちまいこと。
今のやろうめこ。きろう。
でくんる。ちゃく〳〵トヽヽヽ
ゆまるまゆまう。
うけきろうて。
ままと。ヽヽヽきまあはヽヽ

あんなごあのちいこ。なごとかちかうふやァこるこ
もうふまへとれぐろうふるせちうまさなーぶ。
さるへこせこ。コレいちゆーうぬおはれさるとぐ花。
でこやこのでごふまこ。ちゆさ。ちゆこ。ちゆ。
ぷうきうませね。大くこうこうこうこうこうこう
うもきこはぐれこんるでいくのぐやァ稲へはなん
でもァノぐあの底を出せく。コレとやらうとんこく
あのこうぐるぐでも。神田のハ丁場ぐこちうんやの

ぶいぶくさいかさんとい
ちづき
ちやアぽおそろくおまぐ
の人よ。ぢんちとぬりのい稲へ。弱くふざ
きやアぐるとやてんかまるヲーてたこへて。合相
子場の地徳よりのぐはえのあるいうちサア
ざ毎の所めとえへ出せサアぐせてく一こ成はは
親歌ざうとてはおきのどくるこ一十二おきのどくの
人先さなぐイヤ巳年稽さ多ぐあきれちアサア
巳年指めとてへ出せ一十二ちくぐるとへイヤサ

巳年指をぐのてんでさあつかう書。ぺきさ多も一ツ
ある宮の振ぐこと振。宮年。十二月ーらぐ巳年ぐるを
しあ中もう一とめ稲へそぐあるめぺゆふぐるう
今のさ見ま。てのうちよ稲ているこハ一アノ巳年指
ぐ四へ一ヲサ巳年指。イヤぐ毎のちぐ一ぐこ一稲
ひきん。二アちぐふし稲ぺかとてるぢ田ちの毎のちぐ
てしやアぐ稲ぺ。ぐ成ぬよしてきこハ。ちぐ月ういぐ
もちてぐ稲へて。あきてあるせ人一十あうくこれぐ

見しるがゆへにごぞうてのあいやぶるるもとも
さが。ゆをといまもいかきまるまどざくさりのとやさど
おまいくちものはどそうあおとりんぐ一ちぐくるくさ
コレ法花さんおめくやきてんでもまぐまうゆへ。ぐふも
きあまうことがゆへいさトいいれてんれば法花でもるるかぐくあ
まうでりるきまいつうれがきくハ一法花さんてア服でも嗜ゆへ一やりも
ムへれ。ナントきくハうぐ。府中をいけいちるアさん
ぐんまろあてもあるかく。先きくなくでまうけよふ。

トつうひのくろのぜるとあつめでゆりくくこのれるごをたくひあと
ふくぐうのたくくぜるのくりくるをさようはそりくくくとを出うけ
くくちくもこくろがけて。ぐ為のたくいのあくををぐぬれどもぐうう
れぐ。きれもあぐもどくゆくくくうりくくくどりなぐう

こくいぐみ　枯れ木うりをさくもせて

同とさまくくるぐ為の所ク邪

ハハ一法花さん。そんなまカを落しなんる。さぐくふぐ
くきく流あるる世をくを丹ふぐくる

いのれるくひもなき僧テの所

法三八きくや。おくアあり坊をふでもるくれ一おめ

とんこと[illegible]ぞ[illegible]
久へるこぐあるりんぐ。柄杓をあけてもおいせさる
まで[illegible]
ひぐるくてあるうれね[illegible]
こてばろてきこ十二[illegible]
解でもうけてひるせへ[illegible]
[illegible]
さるあるよふ。[illegible]

ゆんあんなふりりきわのぐ〜〜ぐあてお
めしもうんぐるうけ[illegible]おめんも[illegible]
[illegible]
ろちくよんる[illegible]さろきく
[illegible]
いふくるんの用果でこれを見かあるうあ[illegible]
くるつる[illegible]でうあるせへりしるぐきこあ[illegible]る
どんさ[illegible]宿まで八まごよつぐあるの[illegible]

きゝそこゞア 侍 いくらゝゝゝ
あてるもあるぶんゝゝ 侍 ハツアトぶんぐ〻ぐくはやどふ。
やぐでぐるがふちくりくる
ゆるうてぐるゆるむ
きゝあぐもうくもそのくるしきまくるれば

谷をきいてほうやこぐるの釜が湯

くちくる　考くはくしくれゆくてあく
あくくる
山所ゆて解るぐそのへぶくへ後の出とゆくるひ。
くぐひふちくるとつけ合。まくくゆくて湯沸ゆの
ぶき
弱くはくゝとてゆて先見とやまをめんくゝ。ゆくまぐれの

ヒザコウ　二十二

釜をへまくるちゃのゝ侍 ちゃんなゝ侍 おくゆくおざれまくまをチャ。おくし
ぶく
ぶくでゆくまるまれまゆ侍 ゆくゝ侍 あくゆの建場でうん
とくふゆぐくゝ向てまゆ侍くくト侍 内ゆあげけをゆんくくまゆゝ侍
ぐゆくゝ侍 ゆくくゝ侍 ゆくくゝ侍 ゆく

さけ。こなた武文の酒。ぞうぶん
だろう出しなさろ。侍ハイ〳〵ト
侍ハイ付者付よりの者ども
侍三年武文でおざれまして。侍こちらの十二文侍よりの
コリヤ我ども。侍ハイ〳〵ト
侍ハイ。我ども。侍ハイ〳〵ト
侍ハイ。我ども。侍ハイ〳〵ト
侍ハイ。

いざこうだこみやの子幸の松

侍このことを申てうけんにんヒアアでけこくぶ。おのれまへ名ごものざる
通二ハさまゆうでざるうまと。わがどもいわおの泊で。
ぢなの所ゑるれはけうれて。ちがう親家とうしまを
侍ハアそれい通はきまのどくぶ。なるわどざなの所
のさーさのいうろハイヤごなの所とやまへどろ
ぢうのこでごきうまと侍どろぢうといわどやハイ
泥場こやハ泥紙のこでごきうまと侍ハアなふろ

人のためとれよるる泥紙のこをぢろぢうとうう。
通ハさまうでごきうまと侍ソノ又ぢろぢうとぢなの乃
所こいふどやなるわどゲ解せこくハやとき示旦弱へ
ちこか紙ひがこぢうまと。わがども右の泥府ふ
あいまーさのやう通用ハこうれてきまいまーこ
うーぢなる親戚といこまと府中までくるれい
いうやうもいこーまとぢそれまでの所ふ。こなまま
とそこで残ハ分のさーこ合せこやうぢで見こと

うりさふでござりまさとぐ。おらいなさろてでさりま
せぬクトこーまさげるぐらんでんの侍おうそれいきのどく
きんちゃくとりぐー。うせる
途中でりのとれるへ物のいうぐしい。おがもちの親義
とあれべ求て法ろそふ。おろひなはんやど侍ハイ
三百ぐらるまさーあげませんこれいる侍ぐ。
侍ちとーハちまけナませう侍ちらべツ巾ろった
のあるひる。ろうしろ十文の法ろそろ侍ハそれいあん
まり侍ハ十文のきんそう侍ハりちのとおらいなさろて

下さりませ侍ちらべこい半二文の法ろそろ侍ハイエ
ぐふろ侍ちあるべ法ろ侍ちチウ。親者どもかうこん
ぐとおりぐ。こい半二文の法ろ侍ハイヤモウ。そんるふ
まそ文ウおろいるさ侍ハ。ぐそんあ法ぐでれませぬ。
とうい侍ハませう。丁度ろお望るさ侍ハてくさう
ませ侍ハ丁度ろハなんがどや侍ハイてうどやまそ
百ろ法ぐまうまうこととてうどやまさあう
百文なろうぐ侍ハませう侍ハりなろう。百のこと

てうどくのふう。きうくべてうどまりてめてはうへ
そこへそれいありがくうのどぐうまきとトきんちゃくとコ
モレ是ハ安ハめでぐうまきと。拵ふしても。
招付ぐうこでハ。沼ふ百ゲりのハどぐうまきと侍イヤ
ゑずども悴どもゲ友人ハ丸みづ。是ハ拵ハのよい
うゆげどやて侍ハイあるこハまづ若うおハ人、
ゐされまとう。おうきゲおふうとハよいおうこと
でどうまと。ぶうけたゲくぷりふおいくつどうう

上巻コウ二十六

ままと侍あてくおハれ侍ハイあるハ。コウト。二十七八
ゑもゲおうゐされまとう侍ゑども面ゑ已のと
で。沼千二ゑまうゐ侍ハそれハ拵ハうゲどぐう
まきと侍コレハ拵ハ。きうゑ。ゑども。おゑ級の。ゑとゑ
俗ゑ。ゑゑん。ゑ本ハゲ。ゑゑる。ゑる。ゑる。ゑ手で
まうあるゲ。ゑの内でゑどもゲぷりちハ。ゑくく
ゑあるて侍さゑうでどうやゑう侍ハそれゑ又。ゑ中
うちの。ハハへおるこどもゑぞゲ。ゑどもゲこと。

沢山(さぢ)の宗十郎小紙(こ)てちるるぞとヤまを次八(ハ)ア
牛ゐるゆど侍三ゐるぞ(てま)おへいらゐどや(ハ)どんるぞ。お
あてゐさゐそでごりなでまを侍ムウおゐおとゐる
とゐ〳〵。ぢてハゐもるゐ小ハ(ハ)イ上てゐどでおい
きゐうまを侍ナニてゐどア小ハ(ハ)ノ百ゐ小ハ(ハ)イヤ侍とれで
ざどゐうまを侍ハハ(ハ)ニ百ゐへ足けへおとこぢ侍ア小ハ(ハ)ゐ
このをゐすまぎれておもむゐもるゐ〳〵よぶまを大きゐとゐる。
やどゐるくゐのしもくハはくゐてまてゐれのさふゐゐまを足ゐれて
まぢゆゐ〳〵もゐどぢ沼(ぬま)ぢゐてとゐちをどて

ひらがき　弱のしもくふつきてゐ
小ハ(ハ)ニ上おめへまぢ。そんるをゐうゐれとゐ。いまの
弱(ぜ)で若(そで)者でも答ふ。ふるゐ小ハ(ハ)ニリヤアよゐろゐ
トそでヤ小ハ(ハ)ヨイ二ぜんこのゐまを小ハ(ハ)イ〳〵トヤどてゐを
へゐゐ小ハ(ハ)ニ上ゐれそでぢ。ゐひでぢあゐてい足。小ハ(ハ)りか
ゐ小ハ(ハ)ゐれ人よゐゐ小ハ(ハ)イヤ〳〵。そゐいちぢ死ゐ強とゐちゐ
つてゐる〳〵ぬ。又さゐへゐ小ハ(ハ)てぢんでやゐ色やせうゐ。
ゐ(ち)でもおもゐれのこなせへ(ぬニ)そんるゐ。足へ〳〵も

ゆとひとうとんるそだや川ハイリ（注）川うめくぎさハ
のま稲へうョイリ〳〵ゆよい川をいうとんるョワト〳〵アワ〳〵
うちとやけどしさあんまうあついぞあぞそだやと
ちゆ〳〵うあてゆ〳〵うひてくあんぐ小ハコヒ〳〵豆久しゆ。
〳〵ひ〳〵きのどくぐうが。茎とのむ〳〵ゆよひとう
ゆとうんるそだや川ハイリ〳〵川ハコヒ〳〵ゆうぐるョワトよう。
ちう〳〵ゆ〳〵ゲのむうとうとうちうちのちのうとゆで
ゆうれびきうぬうう。ごてめてふ足けんきゆ。ちうと

ぢとととと〳〵さ〳〵てうんるョワトよう〳〵（上ゆるのあとのむ　よよぐ〳〵しのんで）
サアいうふ川でんぶ公が怪（うち）よなゆと
今うひ〳〵そばいふぐちぐ山りうる
とと〳〵そろもうきゆるゲちう
それうう彩用〳〵くる。蹴（そで）切ゆいる。変（そ）いうるぞの
谷（やつがい）あゆて。ゆ（ゆ）ぐ〳〵ふあ。あぎさゆるゆ。ぞあぞの旬（まれ）
ふ。ゆうう八鼻（もう）のさぞとぞ。ぞこ法うして
蒲（ゆき）焼（ゆき）のゆうりひと喰（くば）もうと法ゆや

こちらゝゝかくいうなんぎのゝゝだい
やがてそれ吉原をとおりまをぢかゝゝに指らるゝ所よ
いてるぽ山ぶしのうち家士の山西面よりみえてきたをぢ
道一の絵と京ちうぽ。ぽぽふれあくまを
候の名のゝゝに指らして 絵人乃
あゝとさまとうて 体やまをゝん
彩て 吉原の弱よはたく。指ぢるのゝ美女女。
いづまも美色なるあゝ小〳〵お体なまれやア

せぞけゥあぐうやァゝ。茶の服とあぐうやァゝ。
さいんあゝ葱のお吸物もおぐうやァをぢや
さとこなまんやァゝ。絵一切ごよりうがごるこ〳〵ライ
ぢんるゝ。おま
ゝゝ船ゝ前てるアごふゝ。戻りぐかゝゝやをれ一今を
ゝあづあよの門てきてゝゝ。ちゝ〳〵見ゝゝひろい
やせゝ〳〵ころびやせゝうぐきいてあきれゝァ
ゝぐれまぐれあゝぐさとゝきゝろ〳〵いざゝく俗をのまふる
らゝ人すのゝおぐゝく扇とりちて
ざておさうるいるふくそゝろゝも秋のやまくさ

孫
角盍

きこゑかるゝやうにおもうきとんこうぶんかのやん
ごうちう又ずゝしまつてぐんぎをいたしまをるふとぞ
ろちん 路銭のはごうかとなげハまをと「イヤモウ」ろちゝゃ
ゆゝをだるの所より路用とこゝまてきゝえるゝ。
どふぞめりゝいさめげあゝべこれちく市合力なげひ
まをと「そんなゝこれ法くるく」 トそうゝまれるぶそう
もおりきれるゝハて
こゝろのよ村をゝれる少をぶけゝてゝりんちんさのらけぢゝちん。
あさのゝぢれごろもをきゝろぐゝるゝいれふゝをゝてゝらろけぐゝぐび
ハゝをんなとゝまゝうる観音経へ妙法蓮花経普門品第

始終怠ヨ夕闇世間子息大分遊魚八ム毎晩
三呆線音曲減ヨ夕無正夜前大食羽立日頭
痛八百羅利古灰笑止千萬近邊医者早
速御見舞調合前奥藥呑ヨ夕羅久ヨ良腹
張ヨ夕心経チイン〳〵をるのきさ宮ゝのこんぢう。
おこゝろざゝとおるのんゆまを「おきあうぐおりろく
のゝ。おのゝとふつ紅ゆせゝ坊主「ハイゝを仏法菩提おゝ
ちゝまをせう」 坊二 「そんなゝ。法ゝゝ湯ゝゝつけなゝん

はい　ぜ　ぜ　ぜ

くれてとうぶの六十あまりゆるぞ。ぶぎへイヤこのしゆい。

モウ　塵劫紀ぎやアうまるい。みくつ云うまを

おさろ可ヤアく。ゼヨがあるうきうんこてへ出しなさろ

一ウ二ウ三ウ四ウトあくつひとろくまるぞて陸

ゆのきんゆうふひとうれこの川ちく大

ゆ月ひぐ可とんぐ同ふあいこサアいふトこまぐろ四ヌ

ゆ月山ぐうんゆ生の孫へゆぐアノ解がナニみうくを

るゆめうぐ文うこうりんの解ごろるうくうれてまる

てのそんとうゆやアぐ川こいまくしい今こ川こ解が

のどふはまりこゲツく　トちりさまるゆ子どもくあるどうて

これうう久次のうち　ぜんぜんやど　おぼるこ村ふひこぐれれ

の石碑あるこおがこて小八　せきひ　いまそがき手ぐ

今ゆ我不　我を孫ぶ見まくい　きそ　まを

和ろ一ゆ　わろけ　かも　きをゆんもなし

ゆく　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

冒士川の見こ　城　ゆいろて孫ぶこへ　ど

ゆくゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

あるとい　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

ゆ

此湖と共誠なるかたちやはも雪の山の姿ふたつ

清見がせのうらぐるる土塀の竹ふるる花

色鮮やかなる蒲原の岩ふるる

3